

# イトヨ便り

【発行】大槌町地域支援員配置事業  
〒028-1115 岩手県上閉伊郡大槌町上町1-6  
TEL: 0193-41-2780  
E-Mail: otsch.info@gmail.com



だんだんお雛さまになってきたー！にっこり

今回、使用した粘土は「樹脂粘土」と言っており、とても柔らかいのが特徴です。未就学児から100歳を超えた方、リスク（麻痺、パーキンソン、

## 浪板仮設団地



かわいくできたね！  
オンリーワンのお雛さま

が、粘土を手でして、お団子を丸めるように手際よく進んでいきます。作っているうちにこだわりも出てきて、納得いくまで丸め直す方もいました。それでも

なかには、「おらいいでは、仲悪うがらお内裏さまとお雛さま離なしたのさあ」という声も（笑）隣の人の作品と見比べながら和気あいあいと作成し



楽しく作成した、手のひらサイズのかわいいお雛さま

2月3日、浪板仮設集会所で「粘土で作るお雛さま」のイベントがありました。このイベントは、「リハ

ビークレイアート」さんが主催しています。あの震災でやむなく仮設住宅住まいになられた方々と雛人形を作り、お部屋に飾っていただきたいという思いで、千葉県からきて

リユウマチなどを抱えた方まで幅広く楽しめる粘土なのです。参加した住民の皆さんは試作品を見て「かわいい。けど難しそうだ」と最初は不安

1時間くらいで、かわいらしい雛人形ができあがりまりました。皆さんの作品を一箇所に集めて見ると、同じ材料で同じ作り方でも、それぞれ違う表情のお雛さまが並びました。

ていた姿から、住民さんの仲の良い雰囲気伝わってくるようでした。3月3日のひな祭りには、皆で楽しく作ったお雛さまがお家の中を明るく彩ってくれるでしょう。

この春、卒業を迎えた大槌高校生のうち20名もの生徒が大槌・釜石地区へ就職を決めました。前年度の地元就職者のおよそ2倍の人数になります。そのうち、2名の新卒者が6月に再スタートする、三陸花ホテルはまぎく(旧 浪板観光ホテル)に就職します。今回、その2人にインタビューしました。

## 三陸花ホテルはまぎくを拠点に 大槌の良さを伝えたい

あの人にインタビュー

Q 大槌に残ろうと思ったのはなぜですか？

三浦 はじめは、震災前も後も、大槌から出たいと思っていました。震災がなかったら、たぶん大槌にいなかったかもしれないです。でも、震災後も続く余震が気になって、家族のそばにいたいと思うように

なっただけです。

長岡 震災前から、ずっと大槌に残ると決めてました。震災にあつてからは、ますます「大槌に」って思うようになりました。なんで大槌好きなの？って言われたらうまく答えられないですけど…。この状況で、求人が水産加工しかないと言われても、それをやってい

この春、地元大槌に就職する

長岡 美奈実 さん(左)  
三浦 早織 さん(右)



たと思います。

Q 三浦さんは、接客志望と聞きました

三浦 中学校3年生のときに、ホテルで働きたいと思っていました。母に相談したら、時間帯もバラバラだし、辞める人も多いから

と反対され諦めてたんです。でも、管内の求人票を見て、「三陸花ホテルはまぎく」さんを見つけて、すぐに決めました。

Q 現在、仮設暮らしですが「一人暮らし」への憧れはありませんでした？

長岡 一人暮らしはあまりしたいと思

Q 社会人として、これからの抱負をお願いします

長岡・三浦 大槌は自然が豊かなところなので、三陸花ホテルはまぎくを拠点にして、大槌の良さや、津波がきたときのこととかをたくさんの人に伝えていきたいです。

今は、働くことに対して「楽しみ」という気持ちでいっぱいです。だけど、実際に働いてみて、つらい事とかでできたら、一緒に励まし合って頑張りたいです。

## 赤浜地区 岡谷 悦雄 さん (70)

### 瓦礫を再生した船 第一按洋丸 (あんようまる)

岡谷さんは元々船乗り。以前から、こうして模型の船を作っていました。今は道具もなく、この船の形を作り上げたのは『まぎり小刀』1本。「これだば、マグロ船で500tぐれえだな。休み休み作っから半年かがる」。国際信号旗から、出港旗など細部にいたるまでこだわった逸品です！！

